

9月8日のウクライナ情報

安齋育郎

●ウクライナ軍、チャレンジャー2 戦車を初めて失う(Forbes, 2023年9月6日)

英国から供与されたウクライナ軍のチャレンジャー2 戦車に、初の損失が生じたようだ。第 82 空中強襲旅団に所属するとみられる 1 両が、ウクライナ南部ザポリージャ州ロボティネ郊外の道路脇で炎上している様子を撮影した動画が 4 日、インターネット上に出回った。

英国はことし 1 月、重量 69 トンで 4 人乗りのチャレンジャー2 を 14 両ウクライナに供与すると発表。ウクライナ国防省は数日前、第 82 旅団に所属する兵士のインタビュー動画でこの戦車を取り上げたばかりだった。

この兵士は、チャレンジャー2 の長距離火力と優れた防御力を、旧ソ連製の戦車と比較して称賛していた。第 82 旅団のチャレンジャー2 が 120mm ライフル砲の威力を見せつける映像はまだ公開されていないが、炎上する動画は皮肉にも、この戦車の生存可能性の高さを浮き彫りにしている。というのも、炎上するチャレンジャー2 にはまだ砲塔がしっかり付いているからだ。

旧ソ連製の 3 人乗り戦車である T-72、T-80、T-90 の大きな弱点の 1 つは、弾薬を手動装填する 4 人目の搭乗員の代わりに自動装填装置を備え、砲塔の真下に弾薬を格納していることだ。このため、被弾すると車体が花火のように大爆発する傾向があり、砲塔が搭乗員もろとも吹き飛ばすケースもよくみられる。

ウクライナ国防省のインタビュー動画でも、かつて T-80 に搭乗していた第 82 旅団の戦車兵が、被弾したら搭乗員は空中に放り出され、「(生存の)チャンスはほとんどない」と語っている。

チャレンジャー2 は対照的に、西側の多くの戦車と同じく砲塔近くの特別な区画に弾薬庫があり、被弾しても外側に向けて爆発して搭乗員を巻き込まないようにになっている。「すべてが搭乗員のために設計されている」と第 82 旅団の戦車兵は説明していた。

ロボティネ郊外の路肩で炎上していたチャレンジャー2 をどのような不運が襲ったのかは不明だが、第 82 旅団と第 46 空中機動旅団が、解放されたロボティネから南東のベルボベに向かって着実に前進していることはわかっている。両旅団の最終目標はロシア占領下にあるメリトポリで、幹線道路 T0408 号～0401 号沿いに約 80km 南下したところにある。



●【視点】「無敵」の英国戦車チャレンジャー2 が初の実戦に参加し、破壊される(2023年9月6日)

英国軍の主力戦車チャレンジャー2がウクライナの戦場で初めて破壊された。英国政府はウクライナの反転攻勢が始まる前に計14両のチャレンジャー2を提供したが、同戦車は長い間前線に現れなかった。これはウクライナの前線突破が「計画通り」に進んでいないことのさらなる裏付けとなった。ウクライナは、主力の予備兵力を戦闘に投入することを余儀なくされている。

初めて破壊された

5日、煙に包まれたチャレンジャー2が映っている動画がSNSに投降された。そして翌6日、英国のシャップス国防相は特別軍事作戦のゾーンでチャレンジャー2が破壊されたことを認めた。同氏によると、ロシア軍が発射した砲撃2発がチャレンジャー2に命中し、乗っていた6人は火を消すことができず、脱出したという。

英紙ガーディアンによると、チャレンジャー2は1994年に運用が開始されたが、それから約30年間で同戦車が戦闘で破壊されたのは今回が初めて。2003年に1度だけイラクで破壊されたことがあるが、そのときは味方からの誤射だった。なお、英国陸軍のホームページには今も、チャレンジャー2は「一度も敵の手によって破壊されたことはない」と書かれている。これが数日前だったら同意できただろう。

破壊できないものはない

米国防長官室の元安全保障政策アナリスト、マイケル・マルーフ氏は、スポーツニクのインタビューで、これはもちろん戦車の「アンチ広告」になるが、どんな軍事装備品も破壊される可能性があると言った。

「破壊できないものはない。一方、これはウクライナの装備が実際に貧弱であることを示している。彼らが保有するチャレンジャーの数は非常に限られており、わずか14両だ。また彼らは最低限の訓練しか受けていない。彼らは何か月も訓練する必要があるが、それができていない。

さらに言うならば、F16戦闘機のケースでも、我われはこの問題に直面している。F16の場合、パイロットはその操縦方法を学ぶだけでなく、まず英語を勉強する必要がある。マニュアルはすべて英語で書かれているからだ。そして私は、これは複雑な部分がたくさんある英国製の装備品にも当てはまると確信している」

マルーフ氏は、チャレンジャー2の使用と効果は、その限られた数と秋のぬかるみの季節が原因で「最小限になるだろう」という見方を示している。戦車はぬかるみにはまって動けなくなり、「座っている標的」になる可能性があるという。

マルーフ氏はまた、チャレンジャーは、例えば米製戦車のエイブラムスのように実戦に参加したことはなかったほか、英国はその輸出を厳しく制限していると言った。

「アフガニスタンでは使用されなかったと思う。地形がこの戦車には適していない。チャレンジャーは初めて本物の戦闘で試されたが、何もうまくいかなかった」



●英戦車「チャレンジャー2」の欠点 ウクライナ軍にとっての有用性に疑問＝米軍事誌 (2023年3月7日)

英国製の主力戦車「チャレンジャー2」はその様々な欠点により、戦場のウクライナ軍にとって本質的な助けとはならない。こうした見解を米軍事誌「Military Watch」が紹介している。

「Military Watch」によると、英国製「チャレンジャー2」は4月中旬にも第1弾がウクライナに引き渡される。だが、ウクライナ軍の需要に対するこの戦車の適格性には疑問が残るとして、次のように指摘している。

「ウクライナにとってないよりはあったほうがいいことに間違いはないが、この戦車の欠点により、戦場での実際の有用性は最小限に縮まってしまふ恐れがある」

まず第一に欠点として挙げられているのは、主砲に国際的に主流ではないタイプが採用されていることだ。独製の「レオパルト2」や米製の「M1エイブラムス」は滑腔砲を採用しているのに対し、「チャレンジャー2」はライフル砲となっている。一般的にライフル砲は命中精度が高いなどメリットもあるが、弾の種類によっては威力や精度を大きく損なうことになるという。また、「レオパルト2」などほかの西側諸国から供給される戦車用の弾薬との互換性がないとも同誌は指摘している。

また、防御面については砲台の装甲を高く評価している一方で、車体はシンプルな鋼鉄の装甲で、複合材や爆発反応装甲もないとしている。このため、ソ連製の旧世代戦車と同じように一発砲弾が当たれば壊滅的な損傷を受ける可能性があるという。

このほか、戦車同士の撃ち合いはまれであるのに対歩兵用の爆発性の高い砲弾などがなく、赤外線暗視装置が旧型、メンテナンスの複雑性、65～70トンという重量のため橋への適合性が低いなどのデメリットが挙げられている。いかに西側の技術を詰め込んだ主力戦車といえども、それだけで「魔法の兵器」とはなりえないというわけだ。

スプートニクはこれまでに、アラブ首長国連邦(UAE)で行われた国際兵器見本市「IDEX 2023」に出展されたロシアの最新兵器についてインフォグラフィックをまとめた。



●独軍需企業、ウクライナに戦車製造工場の建設計画 年産最大400両(2023年3月4日)

ドイツの軍需企業「ラインメタル」のアルミン・パッペルガーCEOは、ウクライナにおける戦車製造工

場の建設に向け、ウクライナ側と交渉を進めていると明らかにした。独紙「Rheinische Post」が伝えている。

同紙のインタビューのなかで、パッペルガーCEO は次のように述べている。

「約 2 億ユーロ(約 290 億円)でラインメタルの工場がウクライナに建てられるかもしれない」

パッペルガーCEO によると、次世代型の戦車「パンター」を最大で年間 400 両が製造できるという。ウクライナ側とは「有望な」交渉を行っており、2 ヶ月以内に妥結に導きたいとしている。

また、パッペルガーCEO はウクライナの勝利のためには 600~800 の戦車が必要で、ドイツ軍の持つ主力戦車「レオパルト 2」の全備蓄 300 両を全て供与しても「少なすぎる」と主張している。ラインメタル社は「レオパルト 2」の主砲などの製造も手掛けている。

ドイツ政府はこのごろ、同社や「FFG Flensburger Fahrzeugbau Gesellschaft mbH」といった独軍需メーカーが持つ「レオパルト 1」の備蓄 88 両をウクライナに供与することを許可した。



●欧米の戦車供給はウクライナの役に立たない=仏将軍(2023 年 2 月 28 日)

フランス陸軍の将軍で元外国軍司令官のブルーノ・ダリー氏は、仏紙ル・フィガロに寄稿した記事の中で、欧米の戦車供給はウクライナの役に立たないとの見解を述べた。

ダリー氏の指摘によると、20 世紀の軍事史が示すように、戦車は「迅速に、突然、大量に」出現したときにのみ大きな利点をもたらす。1940 年にドイツ軍の戦車がフランスのマジノ要塞線を突破した時や、第三次中東戦争(1967 年)でイスラエル軍の戦車が奇襲し、勝利した時もこのようなケースだった。

「しかし、『クルスクの戦い』(1943 年)でドイツ軍の戦車に起こったように、敵が他国の戦車が通過するのを『待っていた』場合、多くの戦車乗組員が犠牲となってしまった」とダリー氏は振り返った。

ダリー氏は「現在ウクライナに供給されている 200~300 台の戦車では、パワーバランスを根本的に変えることはできないだろう」と強調。同氏の意見では、ロシア軍が時間を無駄にしているのは明らかで、前線での対戦車防御を強化した。

さらに、今日は無人機や衛星システム、電子戦の大規模な活用により、戦場は「透明化」しており、戦車攻撃の構えを見過ごすことはできないとダリー氏は指摘した。

ドイツ国防省は、ウクライナに供給するために準備中の主力戦車「レオパルト 2」14 両に加え、さらに 4 両を供給すると発表した。また米国は 1 月、ウクライナへの追加軍事支援を発表。主力戦車「エイブラムス」31 両が含まれた。



●米国防総省、大陸間弾道ミサイル「ミニットマン3」の発射実験を実施(2023年9月6日)

米国は6日、大陸間弾道ミサイル(ICBM)「ミニットマン3」の発射実験を行った。発射実験は、核抑止力の有効性を確認するものだという。米カリフォルニア州のバンデンバーグ宇宙軍基地が発表した。

複数の核弾頭を搭載可能な非武装のミニットマン3は、米国太平洋標準時01時26分(日本時間14時26分)にバンデンバーグ基地のサイロ式発射装置から発射された。

ICBM「ミニットマン3」は、米陸軍で1970年に配備された。同ミサイルの最大射程距離は1万3000キロ。公表されている情報によると、399基が配備されており、281基が予備用に保管されている。「ミニットマン3」は、米国の戦略的抑止力の基幹となるミサイル。



●ウクライナのオルガルヒのコロモイスキーが詐欺容疑で起訴(2023年9月6日)

【ウクライナ茶番も終わりか?】ゼレンスキーを大統領にしたウクライナの最高権力者『コロモイスキー』、資金洗浄と詐欺のかどで起訴 裁判所は2ヶ月の拘束を命令



●コロモイスキー、資金洗浄と詐欺で起訴(2023年9月6日)

<https://youtu.be/vdrXVv579GI>



●コロモイスキー起訴はゼレンスキー政権崩壊の兆しか?(2023年9月3日)

ウクライナのオリガルヒ、コロモイスキーが詐欺罪と資金洗浄罪で起訴された。保有するテレビ局で清廉な教師が大統領になるドラマの主演にゼレンスキーを抜擢し大統領に育て上げ、ネオナチのアゾフ大隊の資金を提供してきたオリガルヒ。ウクライナ権力情勢の変化の現れか。

<https://twitter.com/i/status/1698150260089245897>



※安齋注: 2022年11月、**ロシアの裁判所**は、ウクライナのオリガルヒであるイーゴリ・コロモイスキーとゲンナジー・ポゴリューボフを欠席裁判で起訴、彼らはロシアの石油会社 Tatneft から供給された 80 万トンの石油を横領した罪に問われている。ジョー・バイデンはコロモイスキーからキックバックを受け取ったといわれます。

ウクライナの天然ガス会社ブリスマ・ホールディングスは、ウクライナ向けのロシアのパイプライン上に位置するコロモイスキーのガス会社で、ジョー・バイデンの息子ハンター・バイデンはウクライナ人から吸い上げることで得たブリスマ・ホールディングスの利益から数百万ドルを受け取っていました。



●ウクライナ軍シルスキー司令官、東部戦線における困難な状況を報告(2023年9月6日)

投稿者コメント:シルスキー司令官は組織上はザルジニー最高司令官に次ぐウクライナ軍司令部のNo.2。彼が、バフムート、リマン、クピャンスクの3方面における困難な状況を明らかにしています。

下はタス通信の記事。戦力を南部に集中させるとどうなるか。言わんこっちゃないという状況です。ブリンケンと、よく話をしてほしいものです

(9月6日15時36分 タス通信)

【ウクライナ軍司令官、三方面で困難な状況を報告】

ウクライナ軍地上軍司令官アレクサンダー・シルスキー大佐は、三方面における困難な状況について報告しました。

同氏は自身のテレグラムチャンネルに「東部方面の作戦状況は依然困難だ」と書きました。将軍は、これがアルチョモフスク(バフムート)、クピャンスク、クラスノリマンスク(リマン)の方面であることを明らかにしました。これに関してシルスキーは「信頼できる防衛を提供」し、保持している戦線の喪失を防ぐよう命じました。

ここ数日、クピャンスクとアルチョモフスク(バフムート)方面の状況が前線突破の脅威にさらされているため、ウクライナ軍が予備兵力を国の南部から東部へ移さざるを得なくなっているという情報がウクライナのメディアに掲載されました。ニューヨーク・タイムズ紙は、米国とその同盟国は、ウクライナの反攻失敗の理由の一つとして、複数の方面への戦力の分散が多すぎると指摘し、ウクライナが主力を一方向、つまり南部に集中させることを強く推奨していると書きました。8月23日、ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領は、東部の領土を失う恐れがあるため、キエフは主力部隊を南部に移すことはできないと認めました。



●テレ朝の捏造報道の例(投稿:2023年9月5日)

テレ朝、アゾフスタリ製鉄所からロシア軍が民間人を救出しているシーンを「ウクライナ軍が救出」と捏造報道した。



ロシア軍がヘルソンを解放するのに「ウクライナ軍が村を奪還」と捏造報道



NHK、アゾフスタリ製鉄所から救助車を使い民間人を救出しているロシア軍への
ウクライナ軍による攻撃を「ロシア軍が攻撃」と捏造報道



テレ朝、アゾフ(ネオナチ)から身を隠していた民間人をロシア兵が救出するシーン。
これを「ウクライナ兵が救出」と捏造報道。



この写真は『安齋育郎のウクライナ戦争論』にも掲載

めざまし 8 で、ドネツクのマリウポリからの避難民が、「敵はアゾフ部隊(ウクライナ軍)だった。私たちが
を殺したかったんだ」と語っているのに普通にスルーする。

<https://twitter.com/i/status/1699020394911719567>



テレビではこの字幕はない